

水道事業の沿革

SINCE 1949～

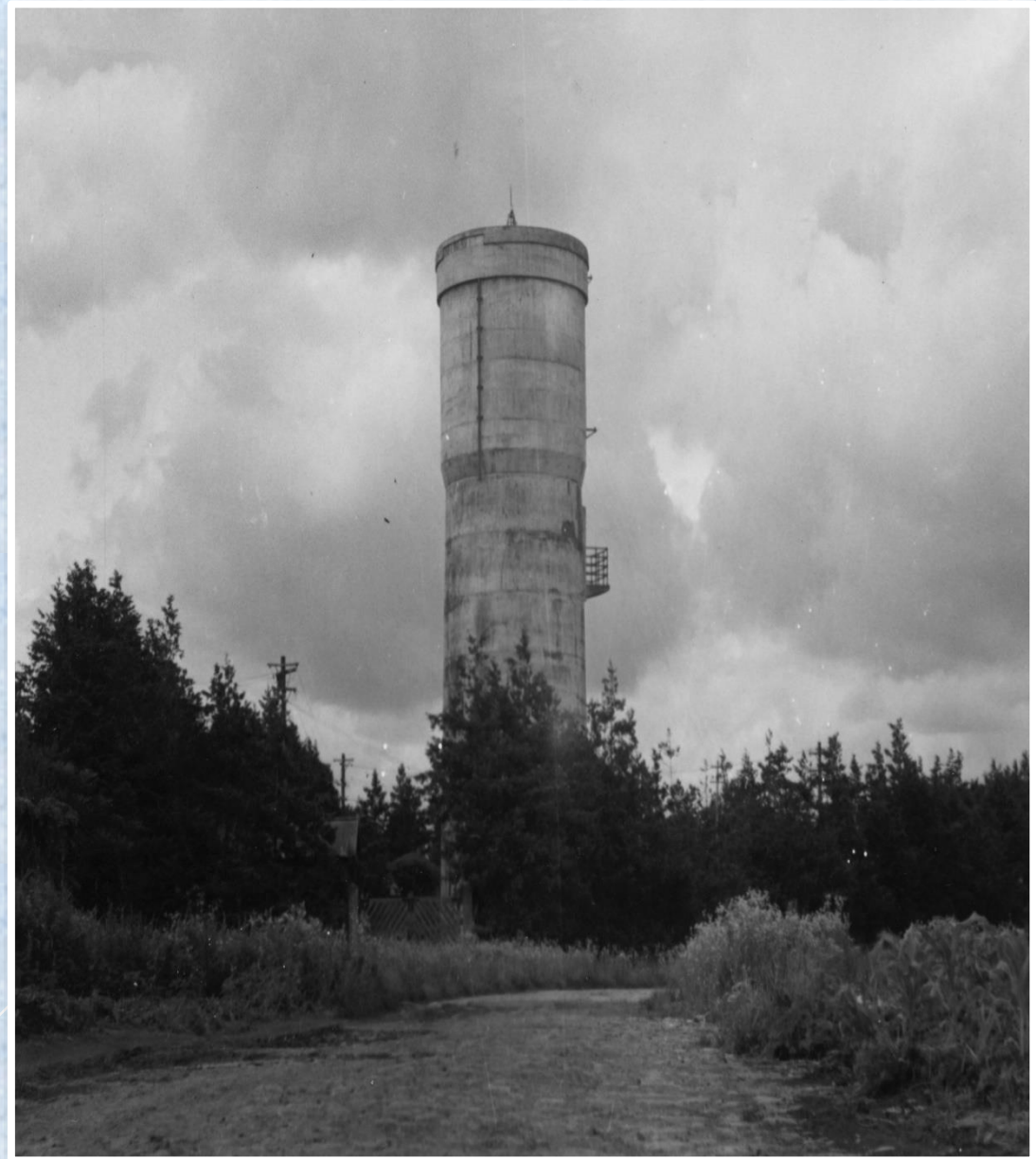


供給区域と市営水道のはじまり

習志野市域ではJR総武線(以下「JR」)を境に北側を市企業局が、南側を千葉県企業局が給水を行っています。

市域を二つの水道事業者が給水している経緯は、1938(昭和13)年、現在の千葉県企業局によりJR以南(現在の市域の一部)に給水が開始されましたが、それ以降はJR以北地域への普及が進みませんでした。昭和20年代に入り人口が増加した大久保、藤崎地区では水道が未整備あったため、高台で水利に乏しく日常生活の不便に加え衛生・防火の面からも給水区域の拡大が大きな住民要望となりました。そこで当時の津田沼町は、その要望に応える形で国が管理していた水道施設を借り受け、1949(昭和24)年8月にJR以北の給水戸数568戸に対し給水を開始しました。これが現在の市営水道のはじまりです。

なお、水道事業開始時の施設は、1935(昭和10)年当時、陸軍が現在の泉町2-4-12(現第1給水場)で兵士や軍馬、陸軍病院に給水するために使用した施設を、戦後になり国立習志野病院が管理移管を受け利用していたもので、1日平均給水量420^mの小さな規模でした。



旧陸軍給水塔

水道事業の沿革

SINCE 1949~



1949~1969 事業開始~20年まで

- 1949年度(昭和24年度)国立習志野病院が管理していた旧陸軍の給水施設(現在の「第1給水場」)を旧大蔵省から借り受けて、千葉県
の認可により事業開始。
- 1957年度(昭和32年度)第1次拡張事業認可。(計画給水人口:
9,780人・計画1日最大給水量:5,130 m^3 /日・給水区域:藤崎町と
実籾町の一部に拡張)
- 1961年度(昭和36年度)第2次拡張事業認可。(計画給水人口:
40,000人・計画1日最大給水量:10,000 m^3 /日・給水区域:JR総
武線以北の市域と船橋市三山、田喜野井2丁目の一部、習志野5丁
目の区域に拡張)
- 1964年度(昭和39年度)第3次拡張事業認可。(計画給水人口:
40,000人・計画一日最大給水量:15,000 m^3 /日)
- 1967年(昭和42年度)ガス水道局を創設。同年、第4次拡張事業認
可。(計画給水人口:75,000人・計画1日最大給水量:30,000 m^3 /
日)



(工施組井白) ▲望ヲ槽水架高リヨ根屋室アソホ水送 場水給野志習軍陸

陸軍習志野給水場高架水槽



旧陸軍給水塔と県営住宅

水道事業の沿革

SINCE 1949~



1970~1990 事業開始21年~40年まで

- 1970年度(昭和45年度)第2給水場が完成。
- 1972年度(昭和47年度)北千葉広域水道企業団に加盟。
- 1974年度(昭和49年度)企業局を創設。同年、第5次拡張事業認可。
(計画給水人口:104,200人・計画1日最大給水量:50,300m³/日)
- 1976年度(昭和51年度)第2給水場からの遠方監視制御を実施し、第1給水場を無人化。
- 1978年度(昭和53年度)第3給水場が完成。
- 1979年度(昭和54年度)北千葉広域水道企業団から受水を開始。
- 1987年(昭和62年度)第1給水場ろ過設備完成。



第3給水場の配水池(現在)

水道事業の沿革

SINCE 1949~

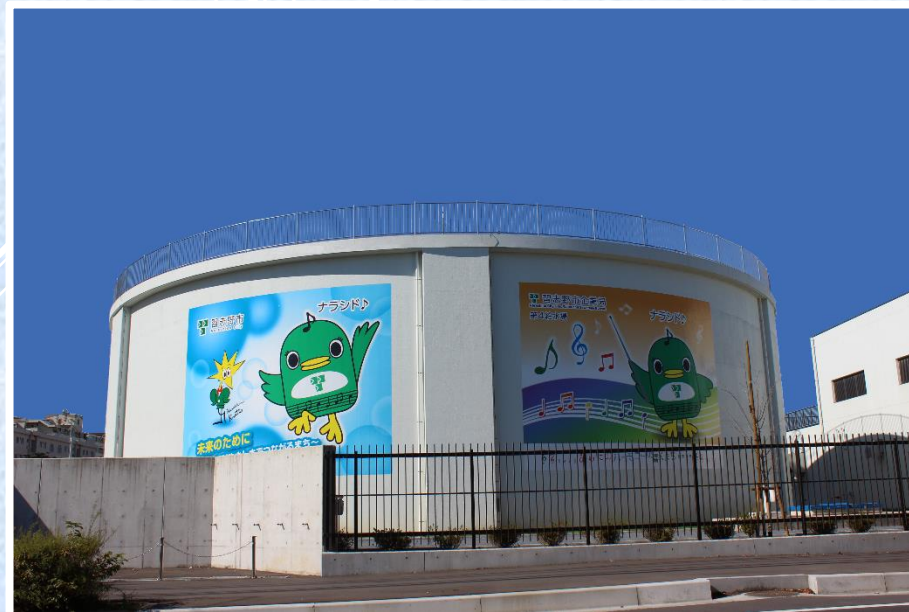


1991~現在 事業開始41年~現在まで

- 1991年度(平成3年度)第2給水場に配水ポンプ井完成。
- 2003年度(平成15年度)第2給水場更新工事完了。
- 2014年度(平成26年度)北千葉広域水道企業団が高度浄水処理施設を稼働。
- 2019年度(令和元年度)第4給水場完成。第1給水場は浄水機能のみを残し、配水機能を第4給水場に移行。



第4給水場管理棟



第4給水場2号配水池